

中興化成工業

庄野直之社長



中興化成工業は創業の地、九州でモノづくり体制の更新を推進している。昨年長崎県松浦市に新工場を建設し、よりクリーンで高効率な製造環境を整備。これに続きこのほどフッ素樹脂の加工工場を取得し、半導体製造装置向け部材の供給体制を強化した。中長期的に拡大が見込まれる半導体需要を取り込むとともに、新規市場の拡大に努める。「食品、建築、医療、エレクトロニクスの各業界における顧客満足を実現するための投資を常に念頭に」（庄野直之社長）置き、実行に移すことで持続的な成長を実現する。

松浦工場にはF1〜5（Fはフッ素樹脂製品や「工場」の頭文字を表す）、エアバッグ基布にシリコンをコーティングするSCの計6工場がある。新工場

フッ素樹脂拠点を高度化



昨年9月に竣工したF1松浦工場。フッ素樹脂製品などを扱い稼働率はすでに8割に達している

の「F1」で手がけるのは、フッ素樹脂の素材成形や各種産業向けベルト、エレクトロニクス関連の新製品など。稼働率はすでに8割に達しており、「別のフィールドでの投資も考えている」（同）という。

さらにこのほどコーエイのフッ素樹脂切削工場を取得し、「F5」に統合した。もともとコーエイは半導体製造装置向け部材を製造する「F5」と同じ敷地内にあり、同社はコーエイに切削工程を委託していた。今

回、切削工程を内製化することで生産の効率化を図るとともに、素材から最終製品にいたるまで一貫した生産管理、品質保証体制を構築する。今後は「F5」を軸に、半導体製造装置関連の需要に対応していく。

ガラス繊維にフッ素樹脂を含浸焼成した建築用膜材は、従来のスタジアムから駅舎の屋根材へと採用が広がり、国内での採用実績は数千件に上る。さらに九州から中国、東南アジア、中東へ供給。近年は吸音や印刷による加飾などの機能拡充を進めており、内装材も含めさらなる用途拡大を図る。